

## 2. 子育てに関する意識

### Q1 親として日頃感じていること

「親として日頃感じていること」として、7項目（①～⑦）の質問について、「まったくその通りだと思う～ぜんぜんそう思わない」の4件法で質問をした。また、「まったくその通りだと思う+ややそう思う」を肯定的回答とし、分析で示す%の値とした。

なお、「親自身の意識（項目①～⑥）」と「性別役割分担意識（項目⑦）」のそれぞれについて、「父親・母親の比較」、「子どもの数別の比較（1人、2人、3人以上）」、「第一子の成長段階別の比較（3歳未満、就学前、小学生以上）」、「共働きと片働き世帯の比較」による分析を行った。

#### （1）親自身の意識（項目①～⑥）

項目①～⑥は、子育てを通して「親として日頃感じていること」を聞いている。

その結果、「⑤親であることに生きがいを感じている」の肯定的回答の割合が87.5%、次いで「④親になったことで人間的に成長できた」85.1%などが高かった。

このように、親になったことが自分自身の成長につながったと回答している割合が高い。しかし、「③子育てに自信がある」は25.2%と高くなかった。

一方、親であることによる負担感を問う項目①②⑥を見ると、「①自分自身の時間がとれない」の肯定的回答の割合は68.4%、次いで「②子育てが負担に感じられる」27.5%、「⑥社会から取り残されるような気がする」16.0%であった。

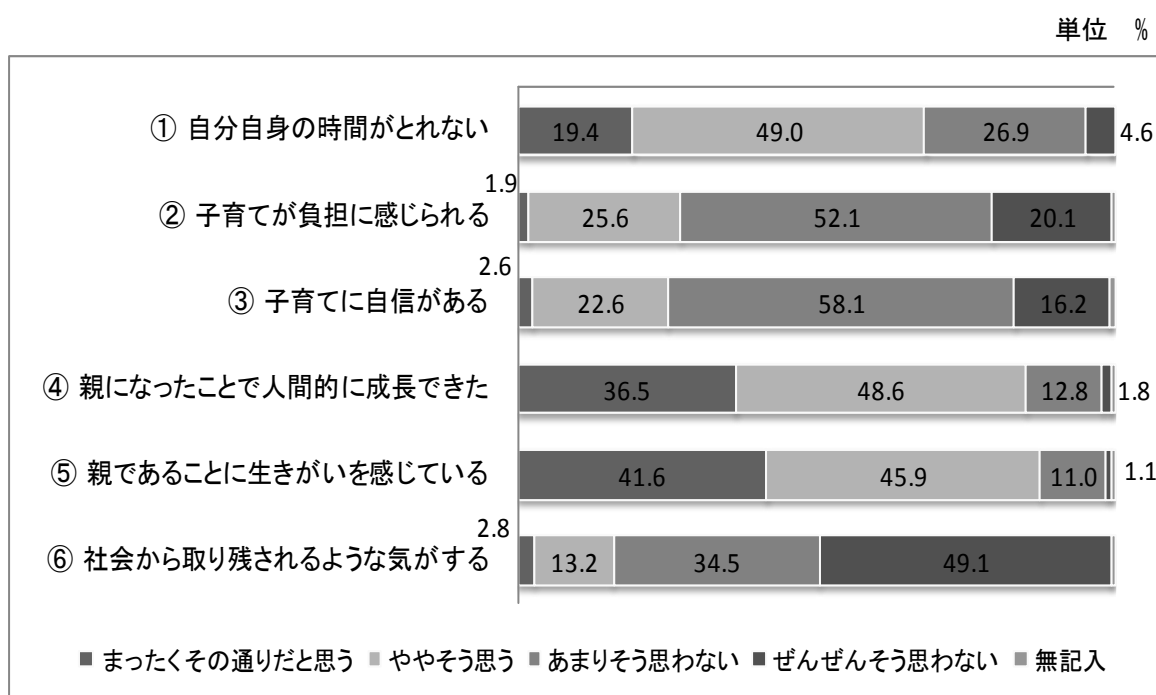


図1-1 親自身の意識（項目①～⑥）

## ア) 親自身の意識（項目①～⑥）[父親・母親の比較]

「親として日頃感じていること」の肯定的回答について、父親と母親で比較した。

その結果、「⑤親であることに生きがいを感じている」、「④親になったことで人間的に成長できた」については、ほとんど差がない。

一方、「①自分自身の時間がとれない」（父親 59.2%、母親 75.6%）は約 16 ポイント、「②子育てが負担に感じられる」（父親 19.1%、母親 34.1%）は約 15 ポイント、「⑥社会から取り残されるような気がする」（父親 6.5%、母親 23.7%）は約 17 ポイント母親の方が高い。この 3 項目から父親よりも母親の方が、親であることによる負担感を持っている人が多いことがうかがえる。

また、「③子育てに自信がある」（父親 35.7%、母親 16.9%）は約 19 ポイント父親の方が高い。

単位 %

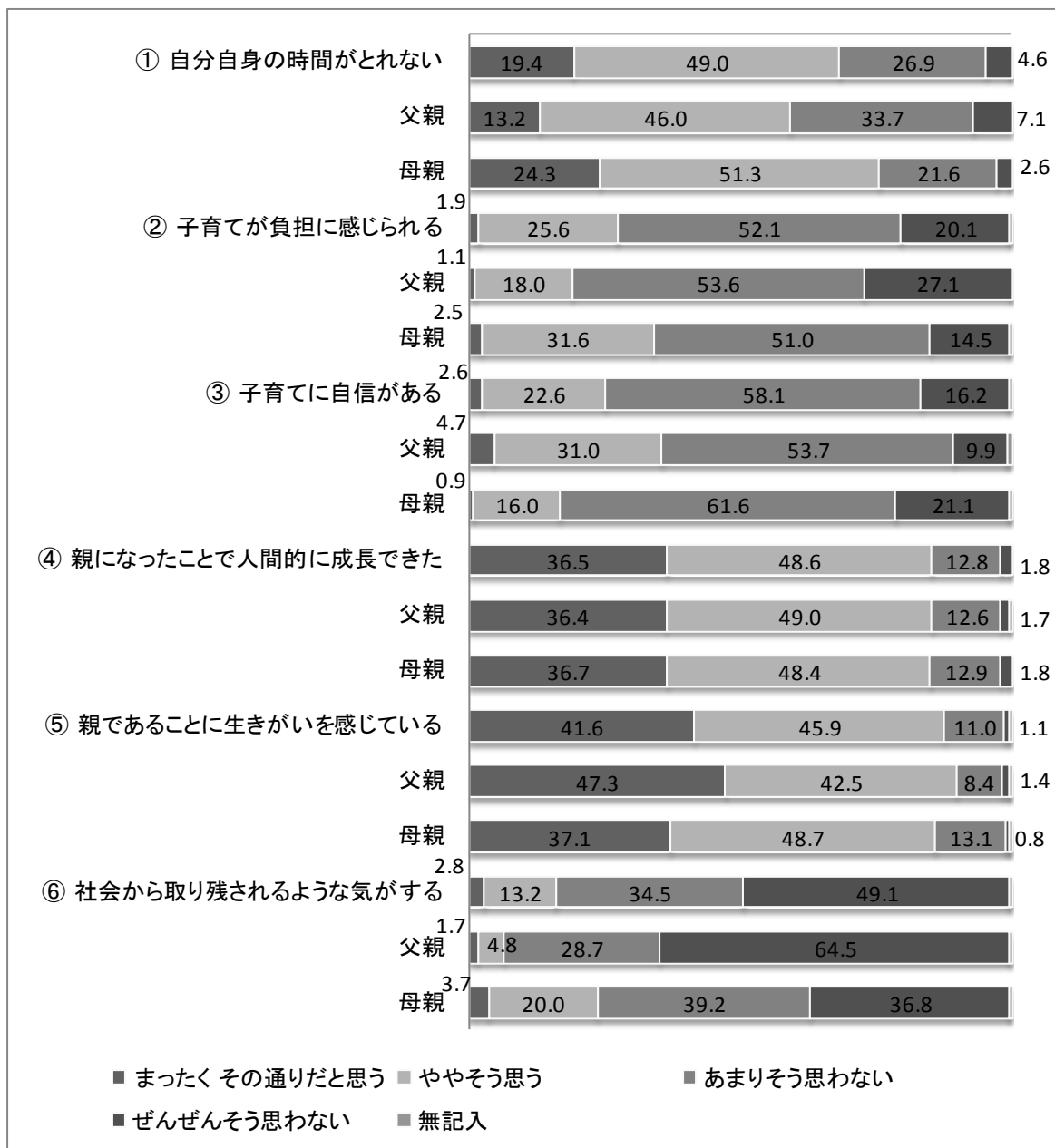


図 1-2 親自身の意識（項目①～⑥）[父親・母親の比較]

また、総務省が行った「社会生活基本調査」により夫婦の生活時間を見ると、夫が家事・育児にかかる時間は、妻と比較して著しく短く、また、男性は共働きか否かで生活実態はほとんど変わらないことが分かる。

このことから、家庭の中で父親と母親が置かれている状況の違いが、子育てに対しての負担感と自信の違いに影響しているのではないかと考えられる。

末子の年齢		共働き世帯		夫が有業で妻が無業の世帯	
		家事関連時間	うち育児時間	家事関連時間	うち育児時間
夫	0歳	1時間18分	49分	1時間22分	48分
	1～2歳	1時間9分	39分	59分	39分
	3～5歳	47分	19分	38分	16分
妻	0歳	9時間1分	4時間59分	10時間7分	5時間45分
	1～2歳	5時間43分	2時間28分	8時間39分	3時間57分
	3～5歳	4時間47分	1時間13分	7時間39分	2時間17分

図1-3 総務省「社会生活基本調査」(平成18年)

## イ) 親自身の意識(項目①～⑥) [子どもの数別の比較]

「親として日頃感じていること」の肯定的回答について、子どもの数別で比較した。

「①自分自身の時間がとれない」の項目では、父親、母親ともに子どもが「1人」と「2人」で比較すると、時間がとれないと感じる割合は子どもの数が増えると高くなるが、「2人」と「3人以上」で比較すると、大きな差はなかった。

次に、「③子育てに自信がある」の項目では、父親は子どもの数が増えると「自信がある」と回答する割合が低くなる。一方、父親と比べて母親の方が自信を感じていないものの、母親は子どもの数が増えると「自信がある」と回答する割合が高くなっている。

さらに「⑥社会から取り残されるような気がする」の項目では、母親は子どもの数が増えると肯定的回答の割合が高くなっている。

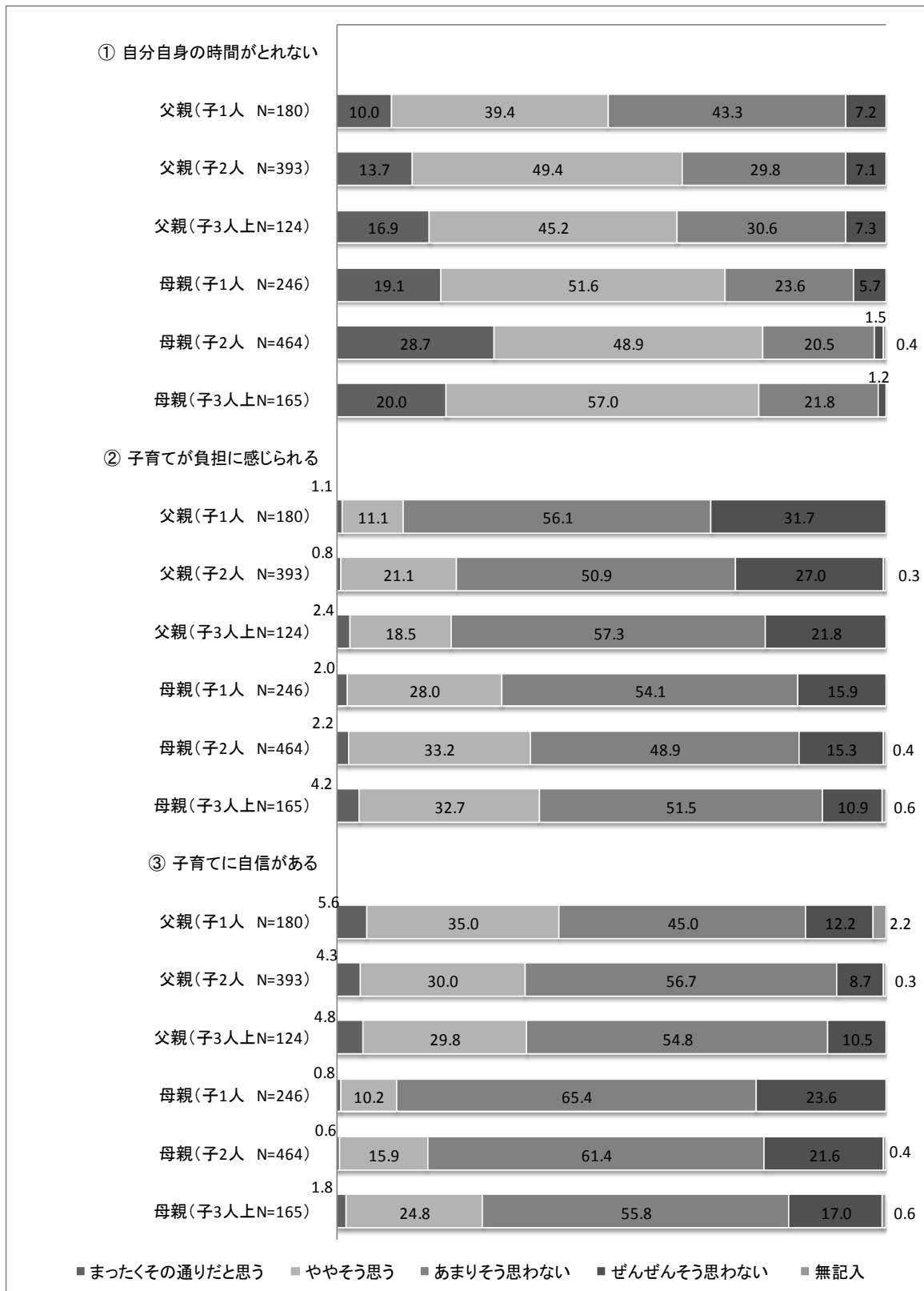


図 1-4 親自身の意識（項目①～⑥）[子どもの数別の比較] ①—③

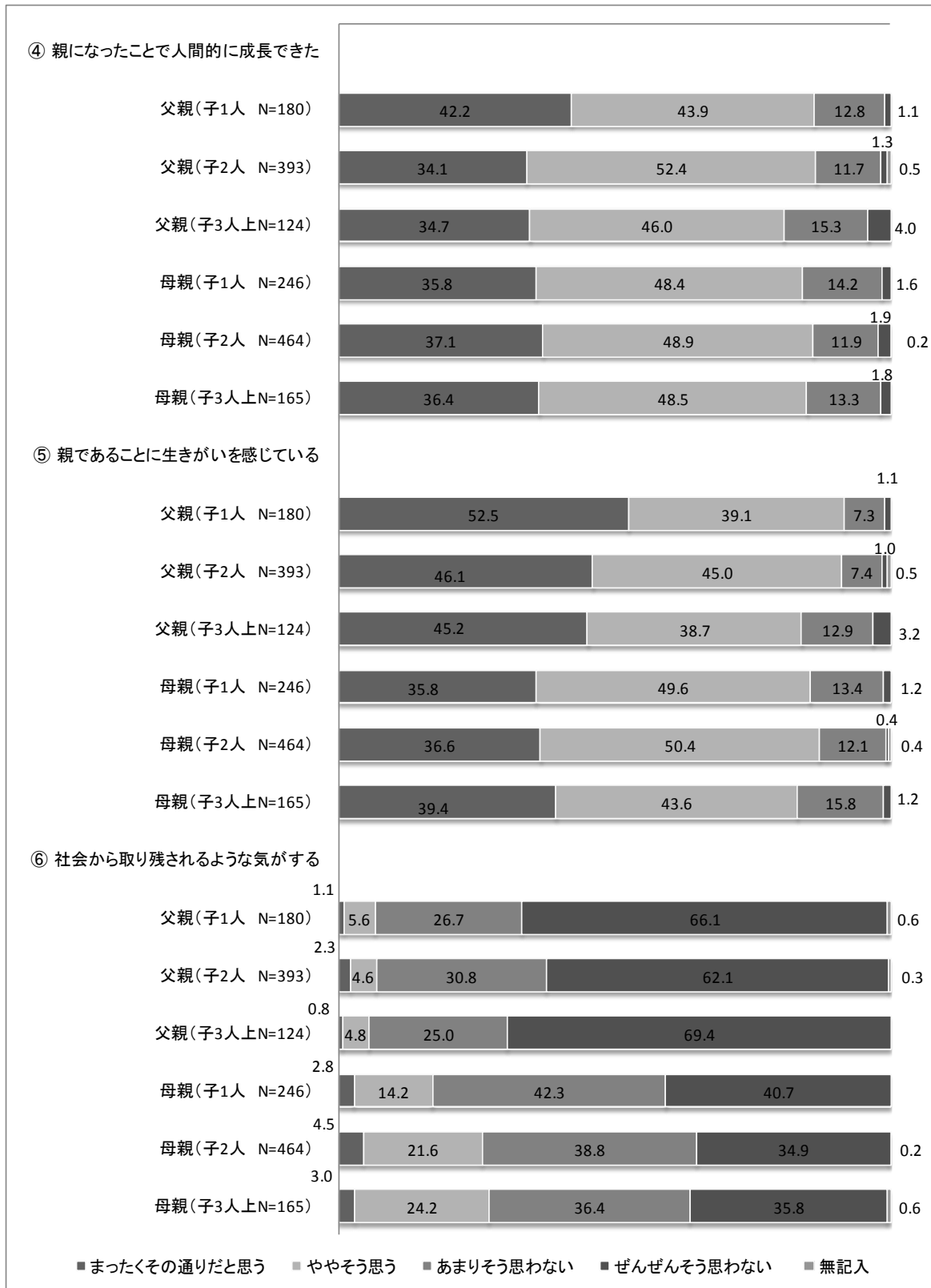


図 1-4 親自身の意識（項目①～⑥）[子どもの数別の比較] ④—⑥

## ウ) 親自身の意識 (項目①～⑥) [第一子の成長段階別の比較]

「親として日頃感じていること」の肯定的回答について、第一子の成長段階別で比較した。

「⑤親であることに生きがいを感じている」の項目では、母親は第一子の成長段階が就学前の場合、3歳未満や小学生の場合と比較して、非常に低いことが分かる。一方、「②子育てが負担に感じられる」の項目では、第一子の成長段階が就学前の母親、父親ともに、負担と感じる割合が高くなっている。

次に、「③子育てに自信がある」の項目では、父親は子どもが大きくなるにつれ、「自信がある」の割合が低くなるのに対し、父親と比べて母親の方が自信を感じていないものの、母親は子どもが大きくなるにつれ、「自信がある」と回答する割合が高くなっている。

さらに、「⑥社会から取り残されるような気がする」の項目も第一子が就学前の母親が他の成長段階及び父親よりも肯定的回答の割合が高い。

このことから、第一子の成長段階が「就学前」の子どもを持つ母親が、他の段階に比べ、子育てが負担に感じられ、社会から取り残されるような気がしていることがうかがえる。

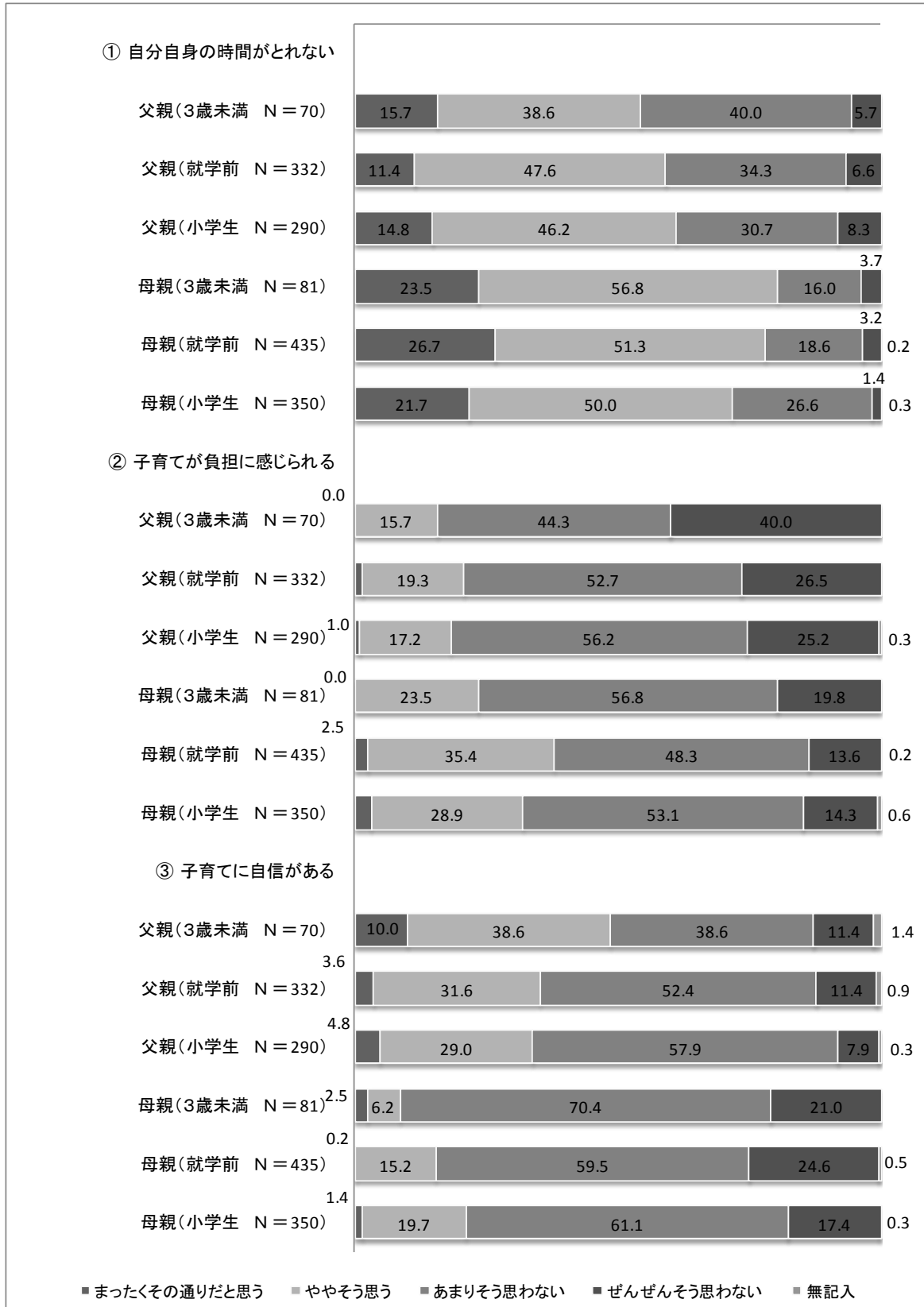


図 1-5 親自身の意識（項目①～⑥）[第一子の成長段階別の比較] ①—③

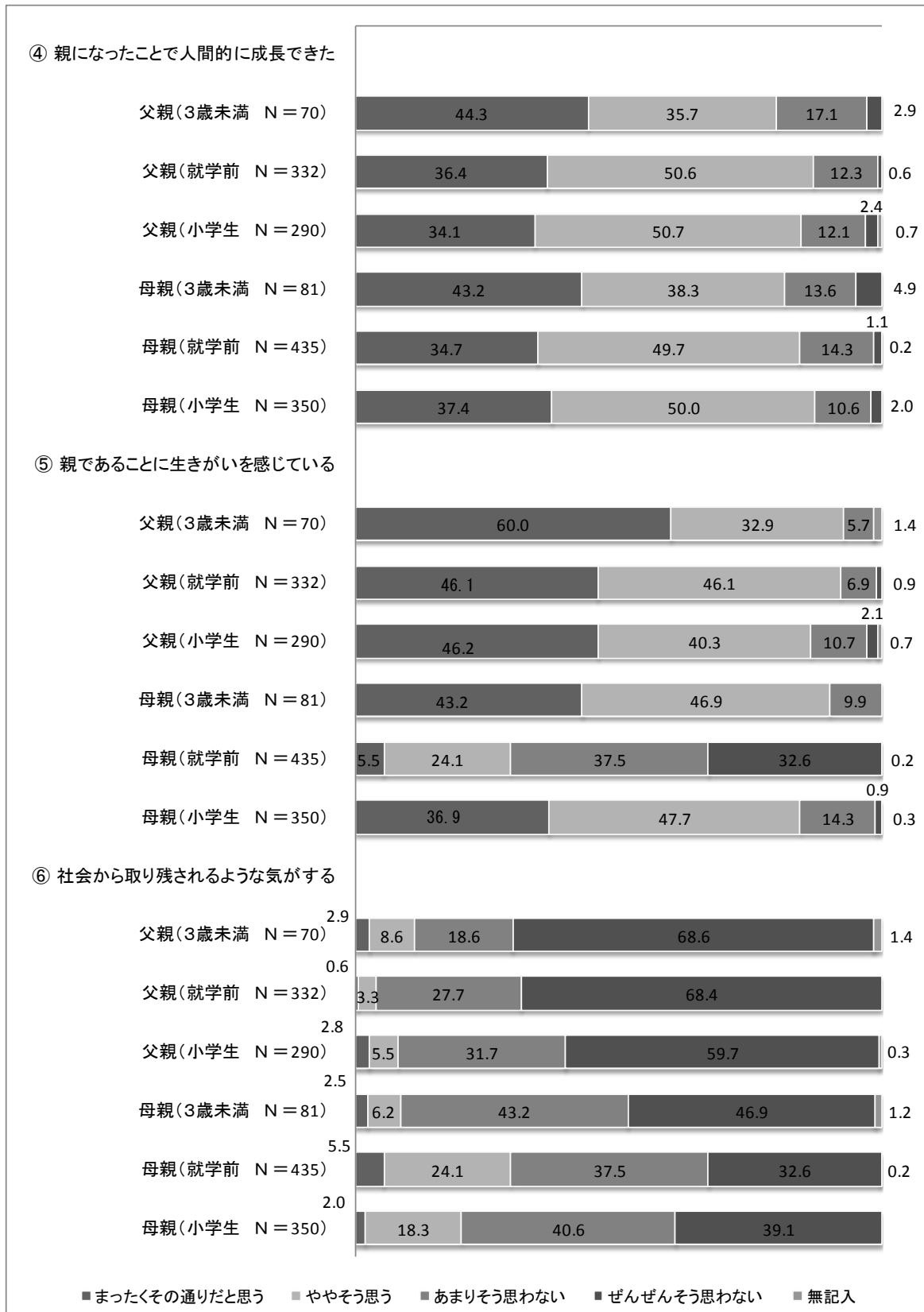


図 1-5 親自身の意識 (項目①~⑥) [第一子の成長段階別の比較] ④—⑥



## エ) 親自身の意識 (項目①～⑥) [共働きと片働き世帯の比較]

「親として日頃感じていること」の肯定的回答について、「共働き」と「片働き」世帯で比較した。

その結果、「母親 (片働き)」は、「父親 (共働き)」「父親 (片働き)」「母親 (共働き)」に比べて、「③子育てに自信がある」「④親になったことで人間的に成長できた」「⑤親であることに生きがいを感じている」の項目における肯定的回答の割合がいずれも最も低い。

「母親 (片働き)」は、子育てに関する自己肯定感が低いことがうかがえる。

また、「⑥社会から取り残されるような気がする」の項目では、「母親 (片働き)」は、「父親 (共働き)」「父親 (片働き)」「母親 (共働き)」に比べて、極端に肯定的回答の割合が高い。

単位 %

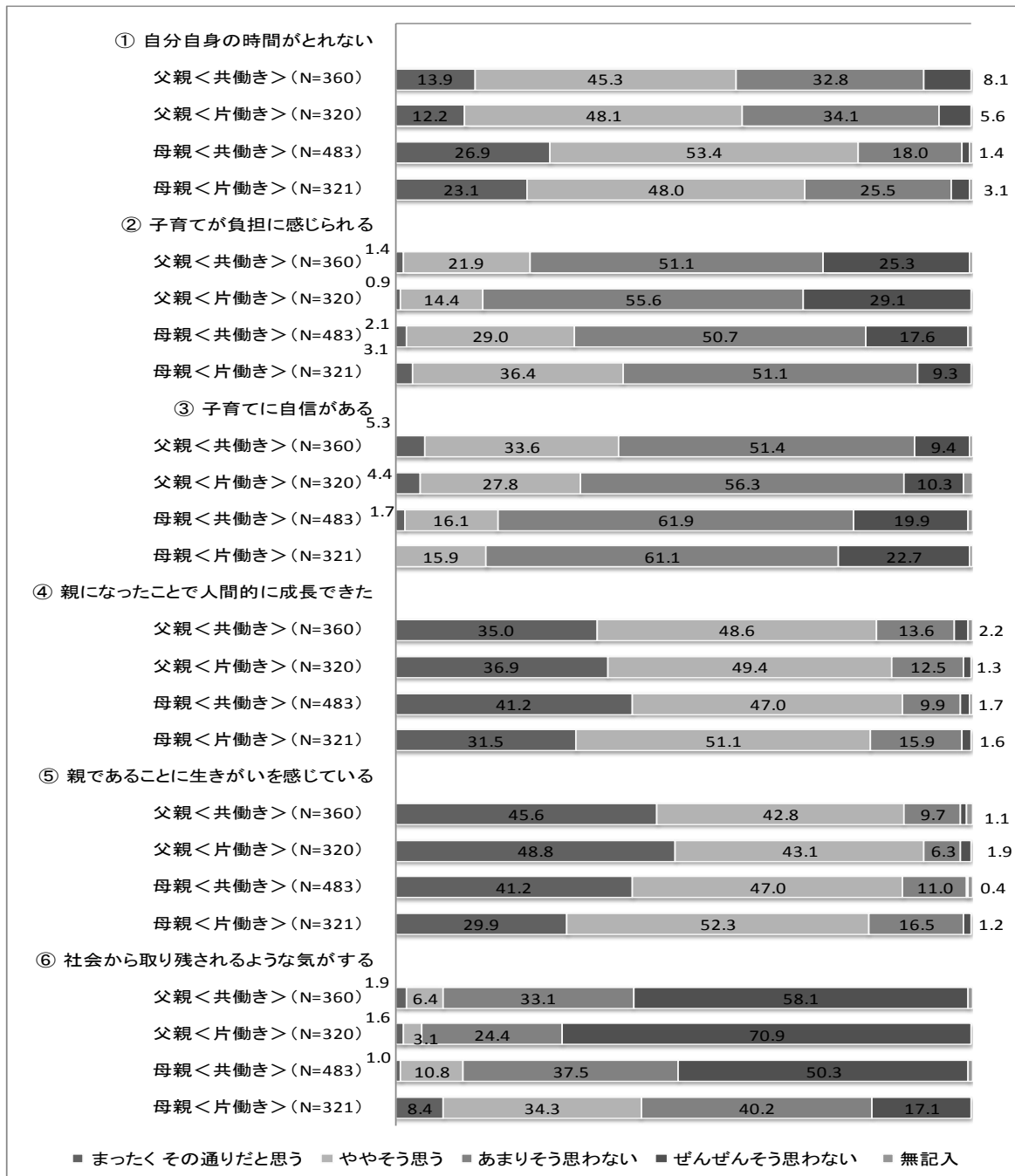


図 1-6 親自身の意識 (項目①～⑥) [共働きと片働き世帯の比較]

## (2) 性別役割分担意識 (項目⑦)

「親として日頃感じていること」として、項目⑦は「性別役割分担意識」について聞いている。

その結果、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の全体の回答状況は、「まったくその通りだと思う+ややそう思う」の肯定的回答の割合が 23.9%、「あまりそう思わない+ぜんぜんそう思わない」が 75.8%であった。

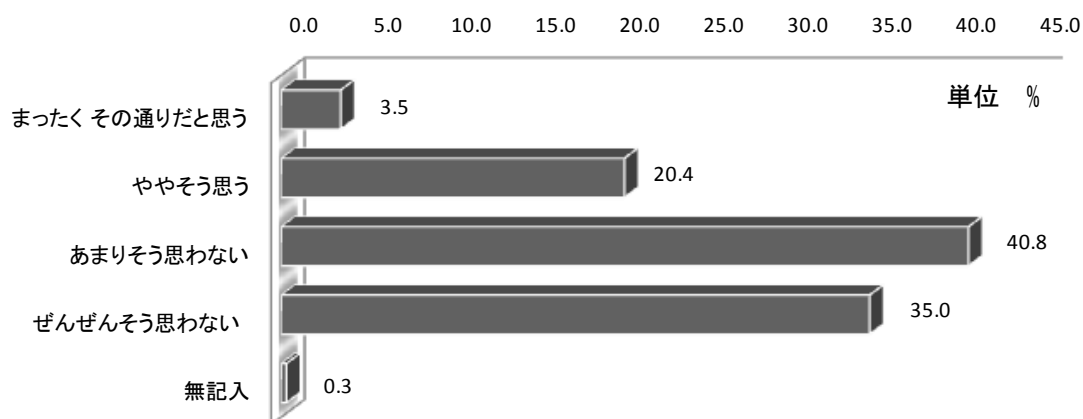


図 1-7 性別役割分担意識 (項目⑦)

### ア) 性別役割分担意識 (項目⑦) [父親・母親の比較]

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の肯定的回答について、父親と母親で比較した。

その結果、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに肯定的回答の割合は、父親 30.8%、母親 18.4%であり、父親が約 12 ポイント高い。

父親は母親よりも性別役割分担意識に賛成する人が多いことがうかがえる。

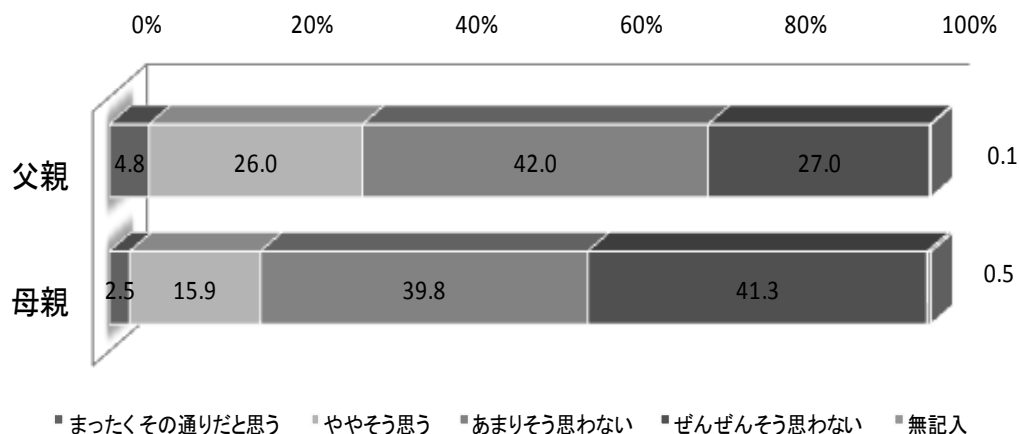


図 1-8 性別役割分担意識 (項目⑦) [父親・母親の比較]

## イ) 性別役割分担意識（項目⑦）[第一子の成長段階別の比較]

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の肯定的回答について、第一子の成長段階別で比較した。

その結果、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに肯定的回答の割合は、父親／3歳未満 28.6%、父親／就学前 31.9%、父親／小学生 30.7%、母親／3歳未満 41.9%、母親／就学前 19.1%、母親／小学生 19.7%であり、第一子の成長段階が3歳未満の子どもを持つ母親が他の成長段階の父親、母親よりも高い。

第一子の成長段階が3歳未満の子どもを持つ母親が性別役割分担意識に賛成する人が多いことがうかがえる。

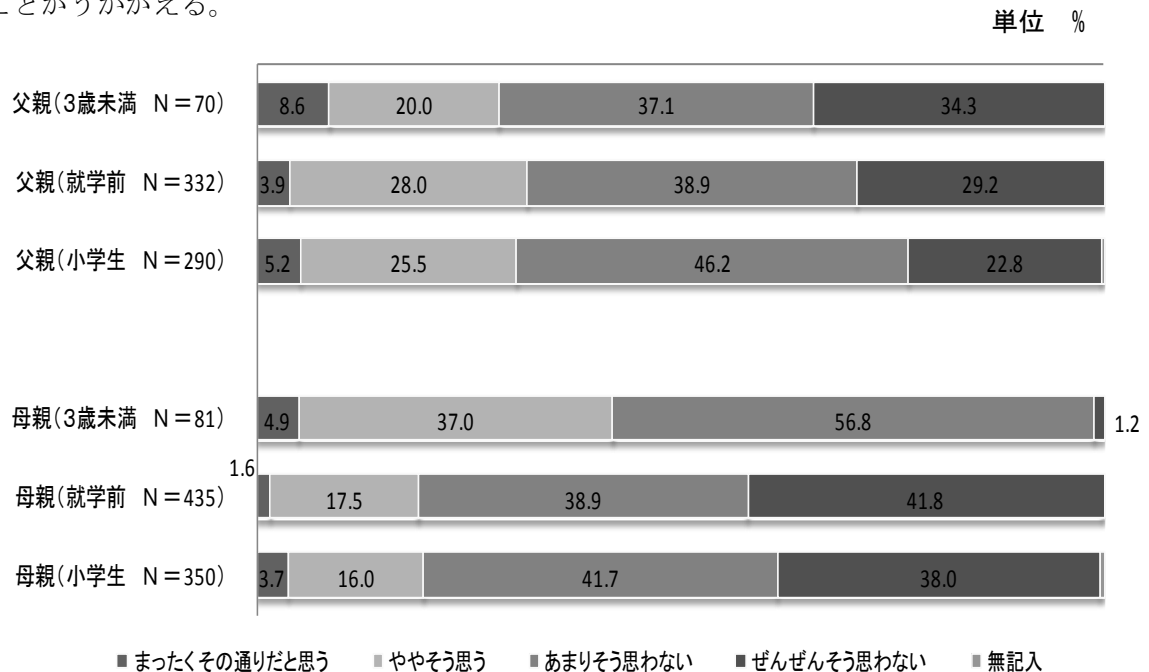


図 1-9 性別役割分担意識（項目⑦）[第一子の成長段階別の比較]

## ウ) 性別役割分担意識（項目⑦）[共働きと片働き世帯の比較]

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の肯定的回答について、「共働き」と「片働き」世帯で比較した。

その結果、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに肯定的回答の割合は、「父親（片働き）」が 40.0%で最も高く、「母親（共働き）」が 13.9%と最も低かった。

また、父親も母親も「片働き」の方が、「共働き」よりも性別役割分担意識に対し、肯定的回答の割合が高い。

「片働き」の方が「共働き」よりも、性別役割分担意識に賛成する人が多いことがうかがえる。

単位 %

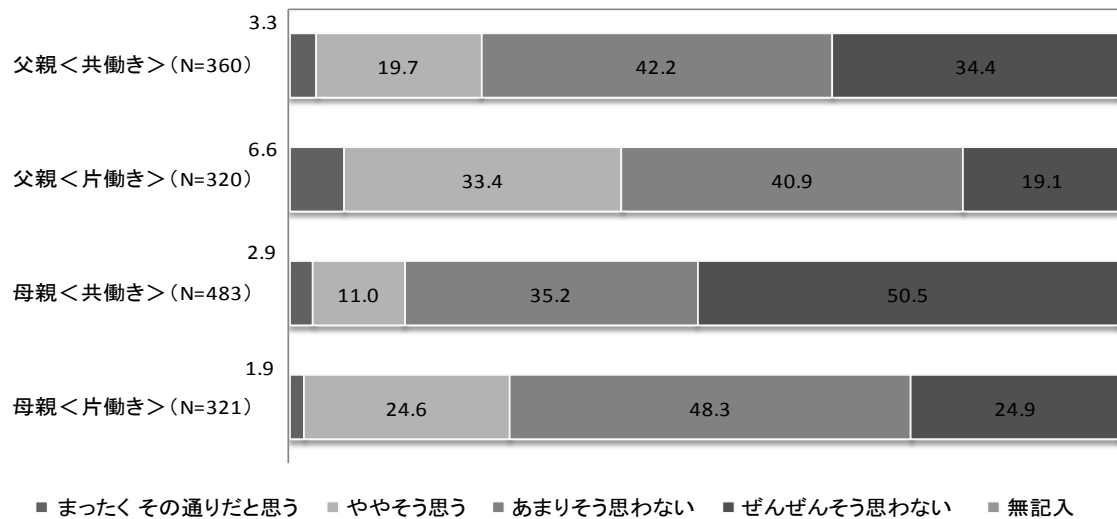


図 1-10 性別役割分担意識（項目⑦）[共働きと片働き世帯の比較]

## エ) 性別役割分担意識（項目⑦）[全国調査との比較]

全国調査は、設問及び選択肢が異なるため、単純な比較はできないが、類似する設問（男女共同参画白書 H21 年度版）を参考に掲載する。

全国調査の 20 代～40 代と本調査を比較すると、本調査の母親は全国調査よりも「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに肯定的回答は少ない。一方、父親は全国調査よりも肯定的回答が多いことが分かる。

全国調査と比較した場合、青森県の父親の方が性別役割分担意識に賛成する人が多いことがうかがえる。

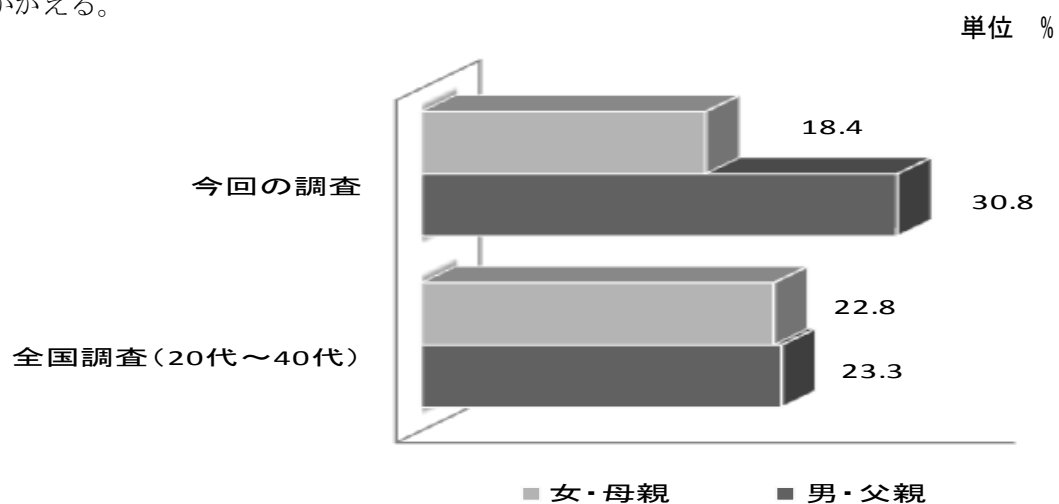


図 1-11 性別役割分担意識（項目⑦）[全国調査との比較]

「男女共同参画白書 H21 年度版（第 1 特 49 図）」

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の質問に対し、（まったくその通りだと思う+ややそう思う）と回答した人の割合